

当事者・家族を地域で支える

高次脳機能障害と付き合いながらの生活は病院を退院してからが本当のスタートです。そして、そのとき頼りになるのは同じ地域に暮らす支援者の方々です。困り事は千差万別、さまざまな課題に地域支援者がネットワークを作り、互いの得意分野を活かしあえたなら…市川市の取り組みからはそんな支援の可能性が見えてきます。

2005年頃

きっかけ

2005年頃から高次脳機能障害の相談が目立つようになったことがきっかけでした。その相談内容は比較的若い世代の方から日中の居場所を探しているというものでした。高次脳機能障害の自分は昔からありますが、障がいがかえらなかつたり、制度が上手く利用できなかつたり、そもそも障がい名を言っても通じなかつたりと、当事者、ご家族、支援者の皆さまが苦勞をされてきた現状がありました。そして、その当時、千葉県では高次脳機能障害支援普及事業が開始されていたこともあり、千葉リハビリテーションセンターの高次脳機能障害支援センターに協力いただき、同年10月に市川市で講演会を開催しました。

今後の課題

市川市において高次脳障害児者サポート会議は、自立支援協議会の周辺会議として位置づけられています。サポート会議の役割は、地域で、高次脳機能障害がい児者を支援している支援者が抱え込んで孤立しないための場になることです。また、事例を皆と一緒に検討することで知識や技術、そして支援者同士の繋がりが得られる場になればと考え実施しています。15年続いています。月末の夜に実施していることもあり、人によっては興味があっても参加しにくい時間帯で、参加する支援者が固定しがちです。支援者同士の繋がりを広げるためにもサポート会議の周知に努め、参加する支援者を増やしていくことが課題と考えています。興味を持たれた支援者の方、現在支援しているケースの件で困っている方など、お時間があれば、市川市役所障がい者支援課までご連絡下さい。

<https://www.city.ichikawa.lg.jp/wel05/1111000082.html>

■デイサービス テイクオフ(木村氏)

市川市高次脳サポート会議に参加させていただいたきっかけは、クモ膜下出血後の高次脳機能障害を呈した50代の男性について、今後介護保険サービスでどのようにサポートできるか悩んでいたことでした。参加したところ、介護保険以外の市のサポートや県のサポート、千葉リハさんからのアドバイスなどたくさんの助言を頂きました。家族会も紹介して頂き、介護の分野にとどまらず地域の繋がりを感ずることができました。地域で高次脳機能障害で悩んでいる方や家族、サポートしている方々に、暮らしている市川市で少しでも役に立てればと継続して参加させていただき、勉強させて頂いています。

講演会は予想を上回る参加者があり、講演会後に、当事者やご家族が話をする場を設けました。その様子から、当事者やご家族にとって思いを話し合える場(家族会)が必要と実感し、2006年1月に「高次脳機能障害の当事者・家族の集う会」を始めました。

2006年1月

※家族会「こ〜じ・いちかわ」

2018年10月活動開始。コロナ禍で活動休止でしたが、現在再開に向けて準備中。

高次脳機能障害がい児者サポート会議の主な内容

- 1.事例検討会
- 2.地域の課題を共有(アンケート実施など)
- 3.家族会「こ〜じ・いちかわ」の活動サポートなど



▲オンライン参加されたサポートメンバー

■市川市身体障がい者福祉センター

当センターにも、高次脳機能障害がいのある利用者が何名かおられ、サポート会議の事例検討にて、千葉リハの皆様にも、様々な観点からアドバイスをいただきました。取り組みのアイデアや専門的な知識を得られ、大きな学びとなっています。その実践により、ご本人やご家族にも安心してもらうことが出来ています。また、当センターもサポート会議の事務局を担当していますので、定期的に事務局会議を開催し、進め方について協議をしています。地域の課題を解決していくため、市自立支援協議会を通じて、施策への反映をはかっています。こうした点についても、千葉リハの皆様からアドバイスをいただけたことを期待しています。

2006年秋

立ち上げ

開始した「高次脳機能障害の当事者・家族の集う会」は、家族会の立ち上げまでには至りませんでした。別の形で当事者を支援できないかと模索する中から、支援者のネットワーク作りを支援することが当事者支援につながるのではないかと考えはじめ、2006年秋に高次脳機能障害がい児者サポート会議を立ち上げました。



現在

現在はサポート会議メンバー(下)と小集団集合、オンラインを併用しながら千葉リハの支援コーディネーターから支援方法やアイデア、ヒントをいただきながらみんなで事例検討を行っています。



▲千葉リハはアドバイザーとして参加

高次脳機能障害がい児者サポート会議メンバー

基幹相談支援センター「えくる」、市川市身体障がい者福祉センター、市川市福祉部障がい者支援課、障害福祉サービス事業所、地域活動支援センター、医療機関、介護保険サービス事業所、高齢者サポートセンター、訪問看護事業所など高次脳機能障害がい児者を支援している地域の支援者

15年続いたサポート会議現在はコロナ禍によりオンラインで開催(9/28基幹相談支援センター「えくる」)



事務局

■地域活動支援センター ココ(永井氏)

ココとしてサポート会議は、
1.地域の高次脳機能障害の方々の実態や事例を知る
2.自分達の活動や情報を発信させて頂ける
3.困りごとを相談ができる
4.会議に参加されている。医療、介護、障害、行政の方々となることが出来る
機会として大変有意義な会議と感じております。また、行政が設置されている数ある会議の中でも、一つの障害に特化した会議は珍しく、大変貴重な場を頂いております。家族会について等、皆様と協力して活動していければと思います。

■タムス市川リハビリテーション病院(SW渡部氏)

会議での連携、情報共有、千葉県千葉リハビリテーションセンターの皆様からのご助言より、専門職として学ばせていただくことが多く、臨床で実践につながっていることも多々ございます。支援者の皆様とのネットワーク作りの場にもなっていて、地域課題を客観的に捉える機会をいただいております。今後も会議を通じて、地域の方々の生活しやすさを皆さんと考えていきたいと思っております。